

ひろ っ 柳 ろう 広 津 柳 浪

* 文久元年6月8日 肥前長崎材木町（現在の長崎市賑町）に生まれる

* 昭和3年10月15日 没（67歳）

○ 略歴

- 明治2年 (8歳) 伯母の婚家である肥前国田代在坂井村にやられ、漢学などを2年間学び、久留米を経て長崎に戻る
- 明治7年 (13歳) 一家上京に伴い、東京の番町小学校に入学 同校を卒業後外国語学校でドイツ語を学び、東京大医学部予備門に入学
- 明治11年 (17歳) 身体の不調から勉学の意を失い廃学、父の友人五代友厚のすすめで商人になるため大阪に赴く
- 明治12年 (18歳) 大阪商法会議所の書記見習いとして勤めるが、実業家は肌に合わず翌年帰京
- 明治14年 (20歳) 五代友厚の世話で農商務省の官吏となるが、官吏生活も合わず、読書にふけり、文学熱を高めた（農商務省は明治18年退職）
- 明治20年 (26歳) 処女作「女子参政蟹中楼」を書き、「東京絵入り新聞」に柳浪子の署名で連載
- 明治21年 (27歳) 博文館に入社し、文芸誌「やまと鍋」を担当 創刊号に「二たおもて」を発表
- 明治22年 (28歳) 硯友社の同人となる この頃博文館を退社、この後中央新聞、都新聞、改進黨と転職する
- 明治28年 (34歳) 読売新聞に「変目伝」、文芸倶楽部に「黒蜥蜴」を発表
- 明治29年 (29歳) 文芸倶楽部に「今戸心中」発表以降多数の作品を発表する

○ その他の代表作

「残菊」(明22)、「おち椿」(明23)、「もつれ糸」(明32)、「目黒小町」(明33)、「雨」(明35)